

北海道スペースポート 「宇宙版シリコンバレー」の取組

資料 2 - 6



HOSPO
HOKKAIDO SPACEPORT

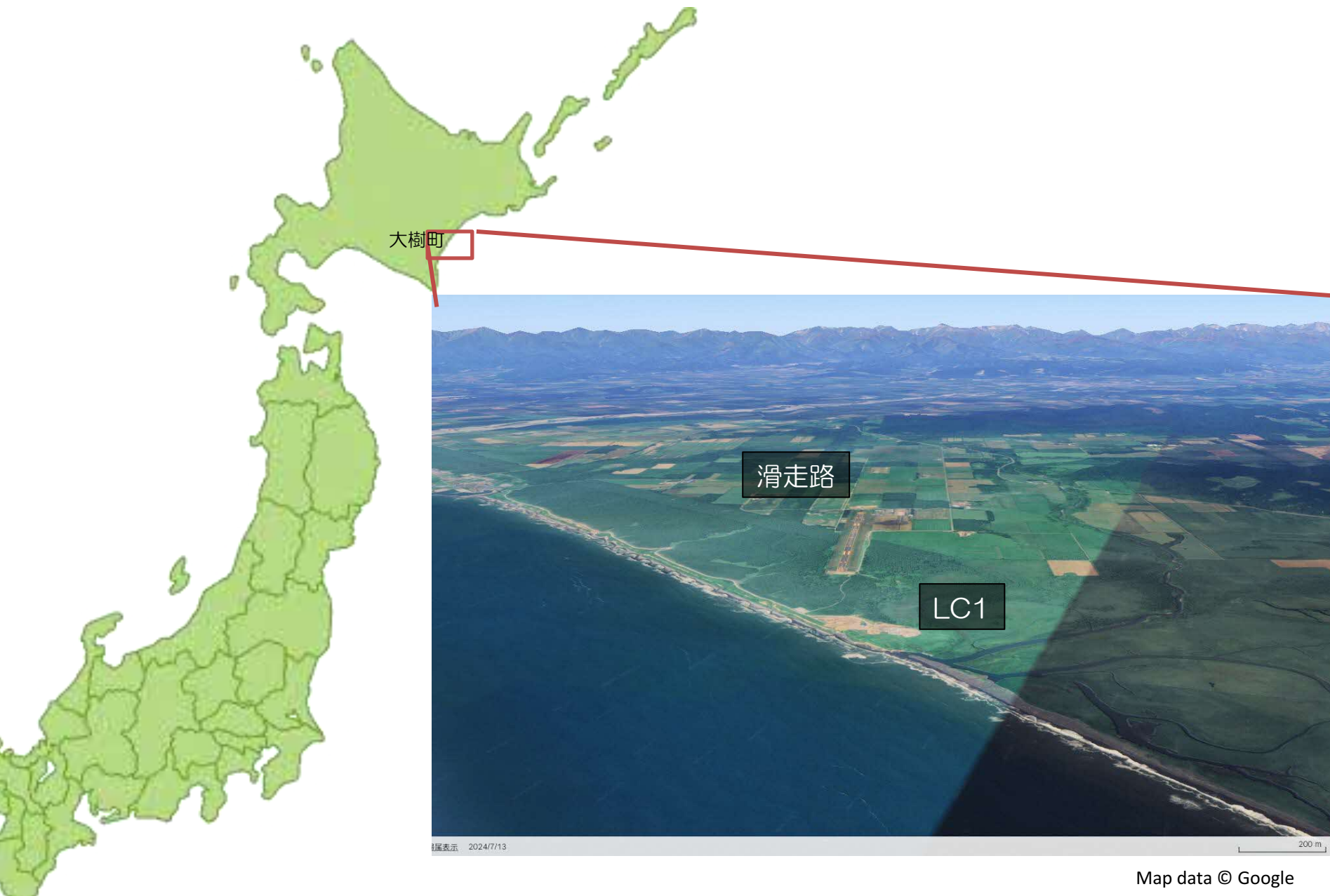
 SPACE COTAN  大樹町

2026年7月
北海道


INTERSTELLAR TECHNOLOGIES

 北海道

北海道スペースポートの位置



Map data © Google

北海道スペースポートのポテンシャル（北海道スペースポートの強み）

- 北海道スペースポートは、世界に誇れる立地環境にあり、既に宇宙空間への打上げの実績を持つとともに、**多機種高頻度打上げに対応するポテンシャル**を有する。

1

国内**3**つ目の射場
としての実績
40年以上の
宇宙のまちづくり
の実績



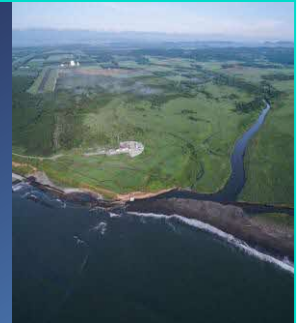
2

高緯度 かつ
東と**南**が
海で開かれている
軌道傾斜角が広い



3

広大な敷地による
拡張性の高さ



4

日本の北端にあるため
海路と空路が
混み合っておらず
打上げウインドウの
確保性が高い



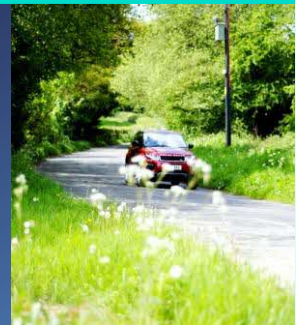
5

圧倒的な
十勝晴れ



6

アクセスの良さと
快適な**周辺環境**



※出展：SPACE COTAN

北海道スペースポート（HOSPO）の歴史

時期	概要
1985年	大樹町、航空宇宙産業基地誘致運動を開始。 「宇宙のまちづくり」を進める。
1987年	道が新長期総合計画戦略プロジェクトに北海道航空宇宙産業基地構想を盛り込む。
1995年	大樹町、多目的航空公園を整備。1,000m滑走路完成。
2002年	北海道大学、植松電機などがハイブリッドロケットCAMUI 1号機打上
2003年	JAXAの実験施設整備。
2013年	インターステラテクノロジズ社、事業所を大樹町に開所。
2019年	インターステラテクノロジズ社、MOMO3号機の宇宙空間への打上げに成功。民間企業としては日本初。
2021年	SPACE COTAN社設立。HOSPO本格稼働開始。 インターステラテクノロジズ社、MOMO7号機、6号機を1ヶ月間に2機連続して打上げに成功。
2022年	大樹町、北海道スペースポートのLC1整備と滑走路延伸に着手。

北海道スペースポート（HOSPO）の歴史

※前回の小委員会からの新たな動き

時期	概要
2023年	・ インターステラテクノロジズ社は、SBIRに採択され、小型人工衛星打上げロケット「ZERO」の開発を加速。
2024年	・ 既存滑走路の延伸工事1,000mから1,300m滑走路完成。 ・ 世界 8 宇宙港とのMOU締結により、商業宇宙港機能の強化を推進。
2025年	・ SPACE COTAN社は、宇宙戦略基金第 1 期の「打上げ高頻度化等を実現する地上系基盤技術開発」に採択され、打上げ高頻度化に向けた技術開発を開始。 ・ インターステラテクノロジズ社がLC1の優先事業者に選定され、大樹町と基本合意書を締結 ・ 大樹町にて、本田技術研究所による垂直離着陸試験を実施。 ・ 台湾資本のjtSPACE社による国内初の海外資本ロケットVP01の打上試験を実施。
2026年	・ 大樹町とSPACE COTAN社が第7回宇宙開発利用大賞で内閣府特命担当大臣賞を受賞。

Launch Complex 1(L C 1)の整備状況

<完成イメージ図>



- 用地造成や電気や水道、通信などのインフラ、VAB（ロケット組立棟）や煙道といった施設は、大樹町が内閣府地方創生拠点整備交付金や企業版ふるさと納税寄付金を活用して整備。
- 優先事業者であるインターステラテクノロジズ社は、プラント設備や発射台などの打上げに必要な機能を付加。
- 官民共創の好事例として2026年度内に完成予定。

Launch Complex 1(L C 1)の整備状況 ＜現在：令和8年4月 状況（写真①）＞



Launch Complex 1(L C 1)の整備状況 ＜令和8年5月 VABの整備状況（写真②）＞



Launch Complex 1(L C 1)の整備状況 ＜令和8年6月 プラント設備（写真③）＞



VAB

タンク貯蔵

インターステラテクノロジズ社

メンバー約350名・4拠点体制へと成長



大樹本社

推進剤タンクの製造・試験・大型部品の組立



北海道スペースポート

ZEROのロケット発射場・エンジン試験・2段ステージ試験



帯広支社

エンジン製造および大型部品の組立・保管



東北支社

電気・機構系部品の製造・各種試験



東京支社

ロケットシステム・品質保証・衛星研究開発など

インターステラテクノロジズ社の試験設備

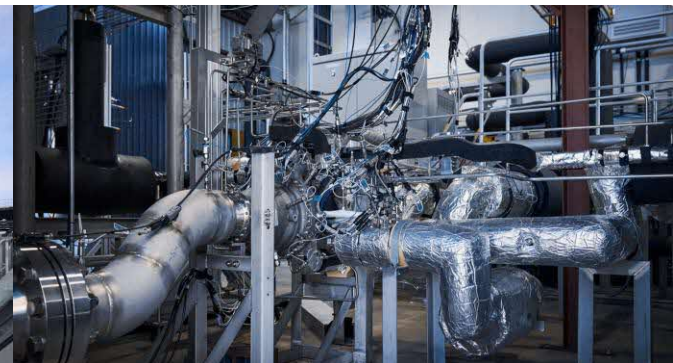
試験設備を保有し、開発サイクルを高速化



燃焼試験棟 (LC0)



燃焼試験棟 (LC0)



ターボポンプ試験設備 (LC0)



2段ステージ試験設備 (LC0)



構造試験棟 (大樹本社)



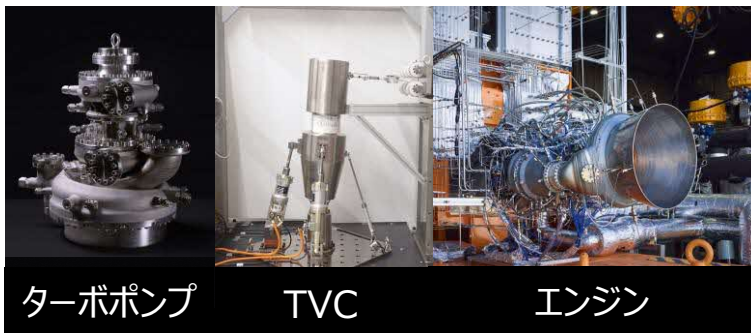
指令所 (大樹本社)

インターステラテクノロジズ社の開発戦略

コア技術を保有することで、「自在性」を確保



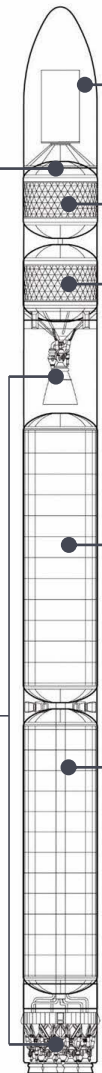
アビオニクス



ターボポンプ

TVC

エンジン



衛星フェアリング



推進剤タンク

トヨタ、ウーブン・バイ・トヨタとの連携によるモノづくり改革 高頻度化・低コスト化に向けた具体的な成果

エンジンや ターボポンプ組立

従来のエンジン組立工程から
リードタイムを大幅に短縮へ

エンジン難加工部品の 製造

高頻度化に向け、内製を含む
サプライチェーン強化が必須

推進剤タンクドームの 工法開発

自動車業界の設備やノウハウを活用し、
高頻度・低コスト化

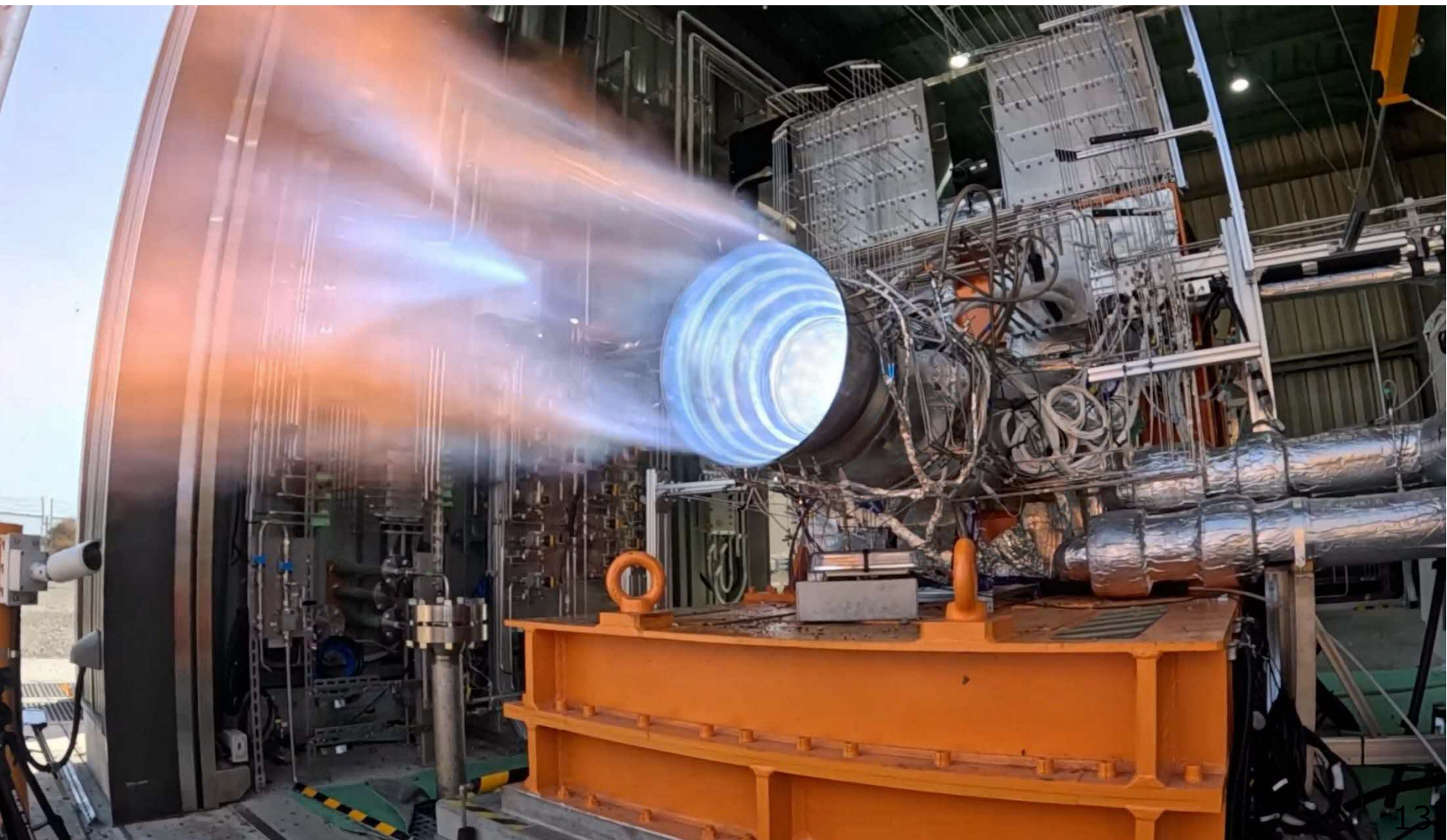
推進剤タンクシリンダの 工法開発

自動車の加工技術を活用し、
軽量化へ



エンジン「COSMOS」を自社開発

メタンエンジンとして国内最大推力13トンを達成



Launch Complex 2 (LC2)のイメージ

- 新たな射場（LC2）では、国内外の小型衛星打上げ用ロケット需要の高まりに応えるため、複数事業者が商業打上げ可能な共用射場を想定。



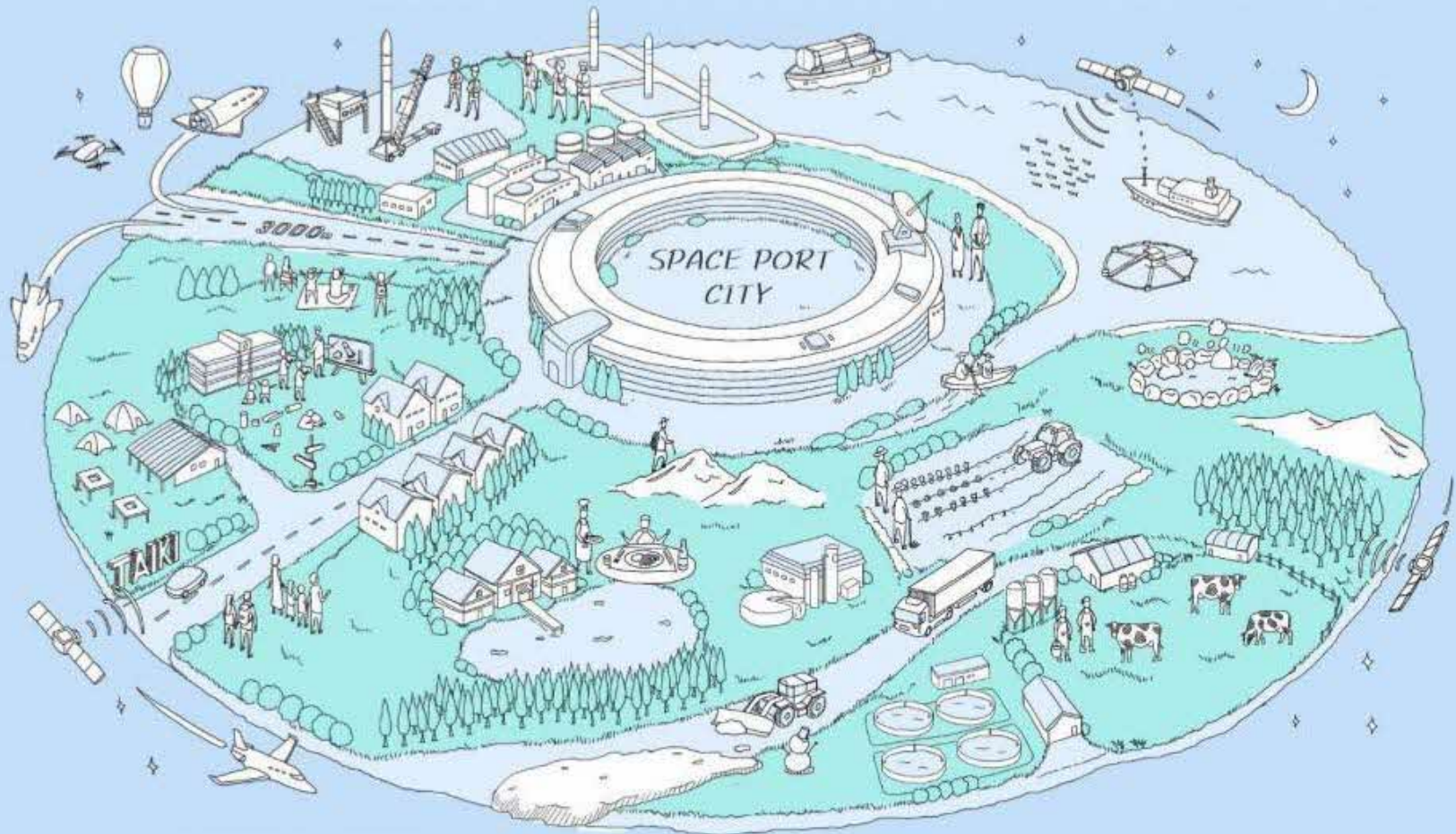
※新たな射場のイメージ
（複数の打上げ事業者が使える射場）



※水平離着陸にも対応したHOSPOのイメージ

北海道スペースポートシティ

- HOSPOでは、2040年頃を見据え、宇宙港を中核としたまちづくりの拡張を図る



宇宙産業振興に向けた道の取組

＜宇宙産業振興を進める産学官連携体制の整備＞

- 北海道宇宙関連ビジネス創出連携会議を設立（2020年） [事務局：道庁]

オール北海道の産学官連携体制を構築し、宇宙機器関連産業分野と宇宙利用産業分野を一体的に振興

構成メンバー：大学研究者、研究機関、業界団体、経済団体、金融機関、行政機関、企業等

企業会員 109社（2026年6月現在）

＜ロケット打上げに関する支援＞

- 円滑なロケット打上げ環境の整備

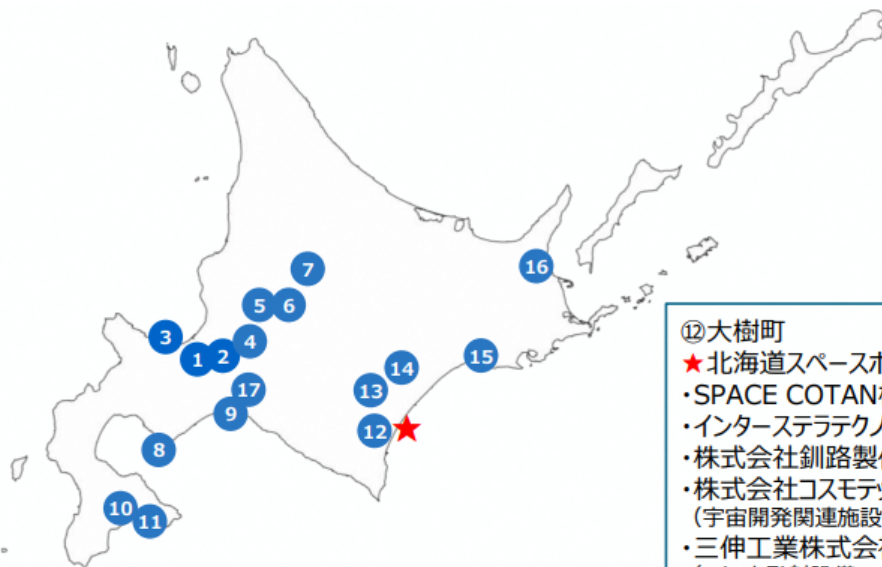
- ・ 航空、漁業、行政等関係者を一堂に集めた関係機関連絡会議の開催
- ・ 広域的な漁業団体への情報提供
- ・ ロケット開発に関する説明会の開催

道内の宇宙関連企業

(出典) 北海道経済産業局資料より抜粋

2025年12月24日現在

※企業名は五十音順



①札幌市

- ・株式会社IDDK SAPPORO BASE
(宇宙バイオ実験プラットフォーム開発)
- ・Letara株式会社 (宇宙機用推進系開発)
- ・株式会社MJOLNIR SPACEWORKS
(ロケットエンジン等の開発・製造)
- ・株式会社Space Cubics (宇宙用コンピュータ開発)
- ・株式会社釧路製作所 札幌支店
- ・北都システム株式会社
(宇宙ステーション関連機器の組み込みソフト)
- ・株式会社レアックス (月探査用地層観察カメラ開発)
- ☆北海道航空宇宙ビジネスネットワーク
(航空宇宙産業クラスター)

②江別市

- ・株式会社インターリージョン
(衛星データソリューション / 環境・農業)
- ・宇宙技術開発株式会社 (宇宙開発利用に係る各種事業)
- ・株式会社岩谷技研 (高高度ガス気球開発—有人/無人)

③小樽市

- ・株式会社ディ・ビー・シー・システム研究所
(多機能性コーティング)

④岩見沢市

- ・Blue Planet Sensing株式会社
(超小型衛星搭載機器開発)
- ・株式会社スマートリンク北海道
(衛星データソリューション/農業関連)

⑤滝川市

- ・Letara株式会社【研究開発拠点】Polaris (ポラリス)

⑥赤平市

- ・株式会社植松電機
(固体燃料製造、実験支援・設備提供)

⑦旭川市

- ・中央精工株式会社 (ロケットエンジン関連部品の製造)

⑧室蘭市

- ・インターステラテクノロジズ株式会社 室蘭技術研究所
- ・株式会社キメラ (ロケットエンジン部品)
- ・将来宇宙輸送システム株式会社 室蘭ラボ
(ロケット・宇宙輸送システム開発)
- ・株式会社永澤機械 (ロケット試験関連設備)
- ・有限会社馬場機械製作所 (風洞実験設備)
- ☆室蘭航空宇宙産業ネットワーク (航空宇宙産業クラスター)

⑨苫小牧市

- ・會澤高圧コンクリート株式会社
(衛星データソリューション/防災関係)
- ・新明工業株式会社 北海道工場 (ロケット製造関連設備)
- ・トヨタ自動車北海道株式会社 (ロケットエンジン部品の組立て)

⑩北斗市

- ・株式会社菅製作所 (スペースチャンパー製造)

⑪函館市

- ・株式会社グリーン&ライフ・イノベーション
(衛星データソリューション/水産・海洋)

⑫大樹町

- ★北海道スペースポート<HOSPO>【射場】
- ・SPACE COTAN株式会社 (射場運営)
- ・インターステラテクノロジズ株式会社 (ロケット開発)
- ・株式会社釧路製作所 サテライトオフィス
- ・株式会社コスモテック 大樹事務所
(宇宙開発関連施設設備の保全・運用)
- ・三伸工業株式会社 サテライトオフィス
(ロケット発射設備・エンジン試験設備・GSE)

⑬帯広市

- ・インターステラテクノロジズ株式会社 帯広支社
- ・エア・ウォーター株式会社 (バイオ燃料製造・供給)
- ・株式会社ズコーシャ (衛星データソリューション/農業関連)
- ・十勝農業協同組合連合会
(衛星データソリューション/農業関連)

⑭池田町

- ・コアックス株式会社 池田工場
(宇宙機器向け同軸ケーブル・コネクタ)

⑮釧路市

- ・株式会社釧路製作所 (ロケット試験関連設備)

⑯標津町

- ・エソウイン株式会社
(衛星データソリューション/自治体・農業関連)

⑰安平町

- ・メイトク北海道株式会社 (ロケット関連治具)

戦略産業クラスター計画の素案

北海道宇宙産業クラスター

集積への動き

- 大樹町には北海道スペースポート（HOSPO）として、インターステラテクノロジズ(株)が運用するロケット射場（LC0）及び町が保有する1300m滑走路が整備済。2026年10月の運用開始を目指し、新たな射場（LC1）を建設中。
- LC1の優先事業者であるインターステラテクノロジズ(株)は大樹町及び帯広市に開発や組立のための拠点を設置。2026年度以降の打ち上げを目指し、小型人工衛星打上げロケット「ZERO」を開発中。
- また、同社はトヨタ自動車北海道(株)（苫小牧）とエンジンの開発・供給で連携しているほか、室蘭工業大学と包括連携協定を締結し、学内に研究開発拠点を設置。
- このほか、道内事業者が、衛星データ等を活用した農業やインフラ等向けのソリューションを開発中。

<ステークホルダー>

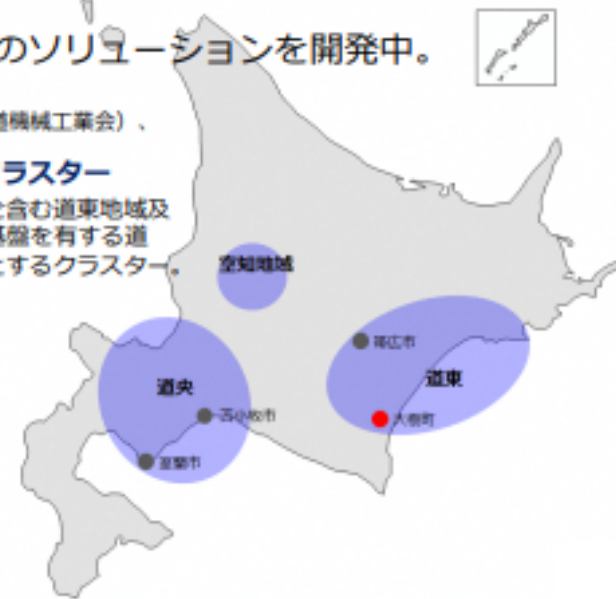
※北海道宇宙関連ビジネス創出連携会議（事務局：北海道）、北海道航空宇宙ビジネスネットワーク（事務局：（一社）北海道機械工業会）、室蘭航空宇宙産業ネットワーク（事務局：（公財）室蘭テクノセンター）等

必要な取組・インフラ

- インフラ**：打ち上げ頻度の増加、複数ユーザーの使用に対応した共用射場整備。関連産業集積のための工業団地造成及び関連インフラ整備（試験設備・燃料供給、道路、通信等）。
- 人材**：産学連携による高度人材の育成・確保。
- 規制改革**：打ち上げ・開発試験関連の規制緩和。
- サプライチェーン**：宇宙関連企業による道内調達拡大に向けた支援等。
- データ利活用**：ソリューション開発及びユースケースの開拓。

◆北海道宇宙産業クラスター

射場を有する大樹町を含む道東地域及び製造業・IT企業の基盤を有する道央・空知地域を中心とするクラスター。



（出典）地域未来戦略に関する関係副大臣等会議「戦略産業クラスター計画の素案」資料より抜粋

道では、ロケット・射場を核として宇宙関連企業の集積促進を図り、宇宙産業の成長産業化を目指す

今後の射場・宇宙港の課題

○ 射場の整備

我が国の宇宙輸送基盤の強化に向けて、インフラ整備への国の関与が必要。

■ LC 1 の増強：

打上げ能力が限定的。高頻度の打上げにはさらなる能力の増強が必要。

■ LC 2 の整備：

今後、多様なロケットの打上げに対応可能な射場が必要。

北海道がわが国の 「宇宙活動を支える基盤の強化」に貢献

道としても道内関係者と連携のうえ、
一丸となってスペースポート整備に向け
検討してまいりますので、
引き続きのご支援をお願いします。